

平成24年度私立学校10年経験者秋期研修会（東日本）実施報告

本年度の10年経験者秋期研修会（東日本）が、10月26日（金）から27日（土）の1泊2日の日程でクロスウェーブ船橋（船橋市）で開催され、43名の教員が受講した。

初日は、文化学園大学杉並高等学校名誉校長である野原明氏の講演「教育の現状



と私学教員の役割」が行われ、学習指導要領とPISA型学力についても問題や、教員免許状制度の今後の展望など、教育界を取り巻く社会の動きについて詳細な説明がなされた。

夕食後は、少人数のグループに分かれての討議が行われた。各学校での校務分掌のあり方や、授業の進め方、あるいは生徒指導上の悩みなどを、熱心に議論していた。

研修2日目の、日本大学准教授で弁護士の堀切忠和氏による「事例に学ぶ危機管理」の講演では、学校現場には、さまざまな事故や危険の可能性があり、それらに適切に対処する必要性を堀切氏は強調していた。

また、午後からの、群馬パース大学講師の原芳典氏による「生徒理解と学校教育相談」では、生徒と教師、そして保護者との関わり、私学をとりまく厳しい社会情勢と、生徒をとりまく複雑な環境を、教師はどう理解し指導していくか、実践的な話題を含めて示唆された。



閉会式では、修了証が授与され、2日間の研修を終了した。